

2012年度 スローガン

For The Team

～チームで築く、未来への礎(いしずえ)～

方針策定にあたり

新興国の需要拡大を背景に、日本経済は回復軌道に乗っていましたが、3月11日に発生した東日本大震災により我が国を取り巻く環境は一変しました。地震や津波による犠牲者は行方不明者を合わせると2万5千人を超え、今も東北地方を中心に多くの人々の生活は脅かされています。また、福島原発事故は様々な形で被害をもたらし、その影響は今なお続いています。この震災によって我が国のみならず世界の経済活動も大きく後退したことは言うまでもありません。加えて、続く円高や株安、欧州国の財政悪化や世界各地で起きる自然災害に鑑みれば、激化する国際競争にさらされている日本は、今まさに正念場にあります。

このような中、ヤナセ労働組合は3年間一貫して「チームワーク」を活動方針の主軸にしてきました。何故ならば、回復基調にありながらも何が起るか分からない環境に打ち勝つには、私たちの強みである「会社への誇り」や「仲間への思いやり」を最大限に活かした強固なチームが必要不可欠だからです。また、会社業績や職場環境に見て取れるように実際に成果が出ており、正に方針の証左と感じています。今年度も前述した方針を踏襲し、予断を許さないこの難局を乗り切るべきと考えます。

一方、リーマンショック以降、直面する課題や問題の対応に追われ、足場を固める活動に傾注せざるを得なかった結果、将来を考え次代に繋ぐ活動を十分に出来ませんでした。“直面する課題に対応する。今を乗り切る”ことだけでは、“永続的に成長し続ける組合員や組織”を望めないのは言わずもがなです。

いつ何ときも、世間動向や経営環境を睨みながら、組合員と会社の将来に繋がる活動をしてきました。しかし、今年度はより私たちの将来が明るく、成長し続けることが出来るよう、自らで「考え、提案する」活動に重きを置きます。私たちの将来像をしっかりと考え、話し合い、それら一つひとつを組合(組合員や組合組織)や会社(各協議や各制度)、社会(社会貢献や社会規範)へ投影し、様々な形で具現化します。

我が国がそうであるように、今まさに私たちも正念場にあります。誰しもが先行きを明確に語れない今に打ち勝たなければなりません。そして、何が起きて動かない将来を作り上げなければなりません。そのためにも、直面する課題に対応することは勿論、「どのような組合と会社であるべきか、社会の中でどうありたいか」を考えられる執行部であり、一年かけそれらを形創り、実行に移す組合役員と組合員を目指します。



2012年度 重点目標【1】

処遇向上 = 会社収益 × 職場環境

今年度も引き続き、私たちの処遇向上の起因は会社収益にあり、会社収益の下支えは職場環境が充実しなければならないことをあらゆる場面で訴求し、私たちの処遇を向上させます。

職場環境からのアプローチに関しては、昨年成果があったことから活動を維持拡大し、“職場環境の更なる充実”を目指します。一方、会社収益からのアプローチに関しては活動スタンダードの一環として取り組みます。

完 遂 の た め の 具 体 的 な 活 動

会社収益からのアプローチ

- 会社方針や計画、進捗や決算を確認し、情宣物や役員を通じ周知します。
「タイムリーに、分かりやすく、背景や理由まで」
- 全国の収益向上策を集約し、再度全国へ展開します。
「現場の成功事例、営業手法の改善、収益アイテムの創造」
- “ヤナセらしさ”を共有し、実践します。
「自動車ディーラーの取り組みは同一だが同質ではない。そこに活路を見る」

職場環境からのアプローチ

- 組合役員が職場の“問題の発生防止・発見・解決・フォロー”に取り組みます。
「OJT、研修会や勉強会によるスキルアップや啓蒙、職場パトロール」
- 安全衛生面を充実させます。
「安全衛生委員会の質の向上、非開催義務拠点の拡大安全衛生委員会の開催、安全衛生ニュース発行」



2012年度 重点目標【2】

あらゆる労働条件の改善を提案します。

“処遇”と言えば金銭処遇だけが注目されがちですが、私たちが働く上で関わる労働条件全てが処遇です。生計の源である金銭処遇への取り組みは勿論のこと、各種制度やその運用、“心の報酬”に代表される職場や対人関係まで、あらゆる労働条件を改善し処遇を向上させます。中でも各種制度を通じた処遇向上を目指します。そのために労使による協働協議会（労務委員会やワーキンググループ）を定期開催し提案型の活動を展開します。

完 遂 の た め の 具 体 的 な 活 動

- 賃金と年間一時金の向上に取り組みます。
「労使協議会、(賃金・インセンティブに関わる)労務委員会」
- 労使にてワーキンググループ(名称未定)を発足し、各種制度や運用を改善します。
「賃金給与関連、退職金関連、インセンティブ関連、評価関連、制度運用面など」
- 重点目標【1】(職場環境からのアプローチ)に取り組みます。

2012年度 重点目標【3】

求められ、あるべき組織を構築します。

リーマンショック以降の数年は、続く経済不況と取り巻く経営環境に伴い、直面する課題や問題の対応に追われ、足元を固める活動に傾注せざるを得ませんでした。結果、永続的に成長し続ける組合員や組織のために、将来を考え次代に繋ぐ活動が十分に出来たかと問えば、答えは否です。

未だ不透明な経済環境にあることは事実です。今年度は、今まで同様に「直面する課題の解決」並びに「基盤活動の強固」を目指すと同時に、私たちの将来像をしっかりと考え話し合い、“どのような組合(組合員)になりたいのか、どのように会社の発展をサポートするのか、そして、社会とどう関与していくのか”、組合と会社と社会の三方で「組合員の更なる地位向上のためのビジョン」を策定し実行に移します。

完 遂 の た め の 具 体 的 な 活 動

- 意見集約、意見交換をもとに組合ビジョンを策定します。
「研修会や各種委員会、組合員の意見やアンケート、労使協議会、懇話会、他労組交流」
- 中央と支部活動スタンダードの更なる定着と深化を目指します。
()内は特に注力するもの。
「各種委員会、研修会(各種セミナー)、専門部会(収益向上策)、情報宣伝(支部ニュース・組合ホームページ)・福利厚生・社会貢献活動(外貨コイン、530(ゴミゼロ)運動)」
- 中央と支部の財政活動を更に深化させます。
「予算の進捗管理、執行、精算処理、資産管理やその運用と研究」

2012年度 重点目標【4】

仕事・私生活・社会の視線で 個人と組織を充実させます。

私たちの仕事や生活の満足度をあげる要因は様々にあります。目標を達成する、仕事の錬度を上げる、社内外から認められる、給与が上がる、家族サービス、貯蓄や趣味など、それぞれの価値観により多様です。しかし、それら全てに影響するものは“時間”ではないでしょうか。今年度は“有効時間の創出”をテーマに、仕事と生活の調和=ワークライフバランスを実現させます。

加えて、社会関与を通じて崇高な組合員や組合組織であるために、ヤナセ労働組合ならではの社会貢献活動に取り組みます。また、ヤナセマンとして、社会人としての社会規範の周知と遵守に努めます。

完 遂 の た め の 具 体 的 な 活 動

- 全国の成功事例を集約し展開します。
「仕事のムリ・ムダの排除、仕事の動線改善、付き合い残業(サービス残業)の撤廃」
- 福利厚生活動を深化させます。
「本部・支部・分会単位の活動、契約宿泊施設、レジャー施設、各種イベント」
- 組合員の生活をサポートします。
「金融や生活に関連するセミナー、金融商品の案内、Way通信」
- 社会貢献活動を深化させます。
「リングプル収集による車いす寄贈、エコキャップと外貨コイン収集によるワクチン寄与、普通救命資格による緊急対応能力、地域小学校講習、530(ゴミゼロ)運動」
- 社会規範やモラル、就業規則を遵守し健全な組合員であります。
「研修会や中央執行委員会での周知徹底、賞罰事例、社会貢献活動」

